

第5章 広義の武蔵野線（東京～府中本町）

私の言う武蔵野線は、東京から始まり西船橋、東松戸、南浦和、北朝霞を經由して府中本町までの95Km位の路線を指す。電車は高架した箇所が軸で、ときには新小平辺りでは地下に潜り、海岸線を軸とする内房線とは全く情緒が異なる。武蔵野線は主として千葉と埼玉を通ることもあり、神奈川県の私にとって距離のわりには時間を費やした。定期券を最大活用するため、東松戸を拠点として、東松戸＝府中本町と東松戸＝東京に大別して走破に試みた。

第1節 東松戸～南越谷

皮切りは、平成13年4月14日（土）北総線で東松戸まで行き、府中本町に向け武蔵野線シリーズの挑戦が始まった。スタートは11時10分頃となった。駅前の道路が武蔵野線に平行して走っていると思い進んだところ、とんでもない方向に行っていることに気がつき軌道修正した。稔台経由で武蔵野線を探す。

新八柱の近郊には、松戸自然センターアスレチック（21世紀の未来と広場）があり家族連れで賑わっていた。新松戸近郊も常磐線が交差しており誤って馬橋の方面に行こうとした。新松戸のダイエー（杵屋）に入り遅い昼食をとった。昼食後も流山鉄道に惑わされ迷う。南流山を過ぎたところで江戸川に出くわす。江戸川を渡ると三郷で埼玉県となった。新三郷の近郊は昔上りと下りのホームが異なったとのことで、そのなごりか知れないが武蔵野線近郊の土地はゆったりしていた。しばらく行くと吉川があり、中川をはさんで南越谷駅があった。三郷と吉川は、武蔵野線（西船橋～府中本町）で唯一東西南北、新、それから3字以上ならない駅名であることに気がついた。

武蔵野線駅名（西船橋～府中本町）

西船橋、船橋法典、市川大野、東松戸、新八柱、新松戸、南流山、三郷、新三郷、吉川、南越谷、東川口、東浦和、南浦和、武蔵浦和、西浦和、北朝霞、新座、東所沢、新秋津、新小平、西国分寺、北府中、府中本町

新三郷から南越谷にかけて広大な空地があり、バブル当時道路や住宅予定地がそのまま荒地となっていた。また、閉鎖になった葬祭場を目に入ってきた。南越谷で辺りがうす暗くなったのでアップした。営業距離20.5Km、万歩計で49,174歩の記録となった。



※21世紀の未来と広場、江戸川

第2節 南越谷～西浦和

2回目は、2001年4月29日（日）緑の日の祝日を利用して、南越谷からのスタートとなった。現地には11時前に着いた。南越谷駅は東武伊勢崎線が交差するターミナル駅だけあってこれまで通過した中では最も賑やかな町並みが続いていた。特にこのコースは、南越谷、東川口、東浦和、南浦和と既存の駅に東西南北を付け加えただけで、創意工夫の跡が見受けられない駅ばかりが続いたので、駅名の由来・伝統・誇りと言った面で貧弱さを感じざるを得なかった。学識者、もう少し情熱をもった関係者はいなかったのか。54回のウォーキングを通じて、各鉄道沿線とも地名や駅名について近代的なネーミングの他に伝統的な重みも感じられるが、武蔵野線の各駅については一切感じられず、非常に残念に思えた。

武蔵野線は元来貨物専用で作られた鉄道のため、分かりやすさを重視し機械的な駅名になったのかも知れない。それ故、駅自体はゆったりと作られている感じである。ただ、この線の沿った道路がないため歩きにくいコースのひとつであったように思う。

ウォーキングしにくい道を通り東浦和駅に着いた頃、昼食時間帯を迎えたのでマクドナルドに駆け込んだ。東浦和駅を過ぎると割合まとまった公園があった。ここで少し小休止をとった。目標は北朝霞であったのだが、武蔵浦和を過ぎたころから雨に遭遇したため、急遽西浦和で打ち切った。大ぶりの雨となり、視界が悪かったため西浦和駅に行くのに苦労した。やっとのことで4時前に西浦和駅に着いた。万歩計で39,867歩、営業距離で15.7Kmと余り数値面で成果はでなかった。

第3節 西浦和～府中本町

第3回目は、2001年5月4日（木）、先週に引き続き西浦和から府中本町までの営業距離 27.8Km のコースとなった。今回は走行距離が比較的長いこともあり、何とか夕方までには府中本町まで走破したいという願望から、愛犬セブンの朝の散歩は家内に依頼し、現地にできるだけ早く着くようにした。

南武線で府中本町に行き、府中本町から武蔵野線で9時半頃先週迷った西浦和に着いた。武蔵野線は小田急線と比べ、駅間隔が長いこともあり、スピード感があり、CD が聞き取れないくらいガタガタとゆらされた。西浦和近郊を冷静に見渡した限りでは迷うような複雑な地形ではなかった。恐らく雨の関係で精神状態がパニックになっていたのかも知れない。



※西浦和駅近郊

30分位歩くと荒川に出くわした。荒川の河川敷きを利用して広大な秋ヶ瀬公園があった。この設計であればきっと向こう岸に渡れるであろうと類推し、その公園を通り抜けて行こうと思ったが、川の中に小橋がなく渡れず。そのため、止むを得ず引き返す。この時ほど、10m位上の秋ヶ瀬橋を遠くに感じたことはない。もし、綱でもあれば投げ縄を橋にかけ這い上がりたい心境であった。正に「急がば回れ」の格言がぴったりの場面であった。いくらもがいても、ボタンの掛け違いが起こると解決はできない。「原点に戻るのが一番解決の早道である」ことを。リカバリーショットに約1時間費やした。

荒川を渡ると久しく見ていない蓮華畑に出くわした。地図で見た限りでは志木市または朝霞市かと思われる。北朝霞駅も南越谷駅と同様東武東上線が交差しているので賑やかな駅であった。昔家事都合でこの駅には来たことがあるので懐かしく思えた。この近

郊には、東洋大学や志木慶応高校もある。新座市の広大なスペースに建てられている由緒ある平林寺（500m×300m位）も見物することができた。それから、閑静な志木街道を通り東所沢に向う。この道が歩き易かったため東所沢駅への探索をせず、怠けて直進する。



※平林寺

すると、芸術的と思える「ケヤキ作りの長椅子」を発見することができ、それをベンチにして手作り弁当を食べさせてもらう。

このケヤキの椅子は、平成12年3月に作られたもので、樹齢90年、高さ16.5m、幹周り187Cm、直径60Cmを加工して作ったと説明があった。また、この椅子の所在地（清瀬市）は、「志木街道下清戸三丁目」としてされていた。

西武池袋線と交差する新秋津は、東京都と埼玉県の境の駅で、近くに空堀（からぼり）川が流れている。この川に沿って遊歩道があり、ここでもサイクリング、散歩それから釣りなどで余暇を楽しんでいる人達を見かけた。新秋津を過ぎた青葉町と恩多町近郊で迷いそうになる。地図を見て現在地点を確認して問題解決。新秋津から西国分寺までは私鉄が複雑に交わっている他、閑静な住宅街を通ることもあり、電車が地下に潜っているので鉄道の方向性が掌握できず、安全性を考慮し府中街道を通り、新小平、西国分寺、府中本町に向う。新小平近郊に一橋大学に面しているのと同じような並木道をしたところに津田塾大学があった。西国分寺は、本年2月に中央線を走破したときに通ったので親しみを感じた。府中本町に着いたときは6時半を回っていた。府中本町では夏祭りでお賑やかであった。万歩計の操作ミスがあり正確な歩数の統計は取れなかったが、少なくとも6万5千歩をマークしていたと思う。

第4節 東松戸～舞浜

第4回目は、昨日に引き続き、2001年5月5日（金）こどもの日、再び東松戸に行き、西船橋駅経由東京駅を目指した。結果的には昨日の疲労で舞浜止まりとなった。東松戸駅前のコンビニで昼飯等を買っていつもの通りウォークマンを聞きながら、愉快的な気分スタートした。東松戸から市川大野まで武蔵野線に沿って道路がないので、道なりの道路である本八幡からの進路変更で苦労し、やっとのことで市川大野に到達することができた。船橋法典の近郊に有馬記念等が開催される中山競馬場があった。有馬記念といえばビンゴガールを思い出す。有馬記念で昭和50年頃一度だけ馬券を買ったことがあるが、残念ながらこの馬はアクシデントで出走取り消しとなった。国営だけあり壮大な造りをしていて、この広場を借りて昼食をとった。西船橋も3月に総武線を走破していたので親しみを感じた。

西船橋を越えた頃から昨日の疲労で足が痛くなり始め、急にスローダウンして来た。高速道路を越えたところに真間川があり、この川に沿った遊歩道を通り市川塩浜を目指す。実際には2.4Kmしかないのであるが、市川塩浜までの道のりは非常に遠く感じた。この駅から東京駅にかけて武蔵野線の延長線であると同時に京葉線でもあった。京葉線は高速道路に沿ってあるので排気ガス等で空気が悪かった。また、東京湾に沿って線路が敷かれているので、清掃場や倉庫の他、工場なども多数見受けることができた。足の痛みが和らがないので市川塩浜で打ち上げようと思ったが、いつもの闘争心が私を新浦安、更には舞浜へと駆り立てた。この間何回も休息した。新浦安駅手前の塩美橋の近くで海を見る。16時頃であった。新浦安の近くには美浜公園や順天堂大学付属病院もあった。今川橋、公平橋（約4万歩）それから伝平橋を通り舞浜に向う。



※ディズニーランドを背景に

ディズニーランドの近くにきたのは、部下の披露宴に出席させてもらって以来 10 年ぶりで非常に懐かしく思えた。夕方になっていたのでわかりにくかったが、今話題のディズニーシーのシンボルと思われる恐竜時代に出て来るようなマウンティンが目に入った。舞浜駅の近くの道路を横切ろうとして、不覚にも車に跳ねられそうになった。この時程、「注意一秒怪我一生」と思ったことはない。この日の成果は、営業距離で 19.2 Km、万歩計で 4 万 4 千歩となった。

第 5 節 舞浜～東京

広義の意味で武蔵野線の仕上げは、2001 年 6 月 23 日(土)となった。この日は夕方 18 時から神楽坂のエミールという所で高校時代の同窓会幹事会があったので時間との闘となった。急に思いついたため 12 時半頃舞浜に着くという遅いスタートとなった。この日は舞浜に着くや否や会社の同僚に会った。この時ばかりは、「世間は広いようで狭い」ということを痛感した。それから、本日は曇りで太陽による方向判断が出来ず、葛西臨海公園に向うべきところ誤って新浦安の方に行ってしまった。マウンティンを見て誤りに気付いた。



※夢の島

新木場にある夢の島緑道公園には 2 時半頃着いた。この公園にはバーベキュー受付があった。埋立地を利用した公園ではあるが壮大さを感じさせてくれた。新木場から東京にかけて、京葉線に沿った道がないこと、6 時から幹事会があるため多少ショートカットした行程を選択した。昼食は 15 時半頃、東陽町の「すき家」という牛丼専門店で遅い食事をとった。

東京駅には 17 時頃着き、それから東京電機大学ビル近辺を通り抜け飯田橋を目指した。神楽坂には 18 時 10 分頃着いた。この結果、東京と御茶ノ水間（中央線）も間接的ではあるがクリアした。この日の営業距離は 17Km、万歩計は 50,045 歩をマークした。